

二十五回蒼天句会 今月の一句

令和六年十一月十四日 兼題…小春日、又は自由

鬼の子にやさしき風の子守歌

公子

新米の粒立ちあがる塩むすび

婦紗子

再起はかりて小春日の富士仰ぐ

賢一

継がれきし去来の庵の小春かな

繁一

湾奥は第二の故郷秋つばめ

孝志

明けの海金波銀波の小春かな

ムツミ

ビル解体ネットを揺らす虎落笛

信江

秋光の尖塔数ふ古都の路

静江

CAの微香爽やか夜間飛行

鎮夫

紅葉山はるかに里の水車音

隆彦

遺影をば窓辺に置きぬ小春風

隆男

おでん鍋また煮返して独りなる

重子

小春日や猫は伸びして欠伸して

紹子

小春日や少人数の七回忌

久恵